

2017春闘 団体交渉開始

第1回団体交渉が行われ、経営側の現状認識について話がされました。

・全般的な判断

総額人件費として将来にわたり経営に影響を及ぼすベースアップについては中長期的な経営環境と業績判断を視野に入れ慎重に判断しなければならない。

為替が円高に転じ、昨年度よりも更に厳しさと不透明感を増す経営環境下にある。

・経済動向

景気の基調判断は昨年12月以降、判断を据え置いたままとなっている。

景気判断の個別項目では特に個人消費を11カ月振りに下方修正している点には着目しなければならない。

GDP速報値においても個人消費が1年振りにマイナスになるなど、先行きリスクは否めない。

・当社業績

第3四半期決算については営業収益が5期連続の増収で過去最高となった一方、営業利益については大幅な減益となっている。

収益の確保が大きな課題となっている。

コスト構造の変化と、その変化の可能性について、きちんと認識した上で収益と費用の動向に今後も常に注視していかなければならない。

・中長期の課題

確実な技術継承と社員一人ひとりの力を更に伸ばす人材育成を強力に進める。

現状の業務を見直し効率的で生産性の高い業務執行体制を構築するための施策を、スピード感を持って実施していかなければならない。

・基本スタンス

「人事賃金制度」及び、この間3年連続で実施している賃金改善などを含めて総合的に判断していく必要がある。

高い公共性を有した企業であることから世の中の動向を踏まえて突出感を与えることのないように留意すべきである。

職場から全員で春闘を盛り上げよう！！